

学校教育目標	■■■ 互いを思いやり、認め合って、自分の生き方を創り出すことができるようにします ■■■ ○意欲と自信をもち、主体的・対話的で深い学びを目指す子どもを育てます。(知) ○自分や仲間のよさを見つけ、豊かな関わり合いをもてる子どもを育てます。(徳) ○自分や仲間の生命と身体を大切にしている子どもを育てます。(体) ○地域を愛し、共に歩むことができる子どもを育てます。(公) ○社会に目を向け、これからを考えることができる子どもを育てます。(開)				
学校概要	創立 134 周年	学校長 近江 学	副校長 久松 篤	2 学期制	一般学級: 16 個別支援学級: 5
	児童生徒数: 443 人	主な関係校: 新田中学校、新羽中学校、新吉田小学校、新吉田第二小学校、綱島小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	〇〇中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
＜自分づくりに関する力＞	新田中学校 綱島小学校 新吉田小学校 新吉田第二小学校	人とのかかわりや、自他の思いや願いを大切にできる子ども ○言語能力の充実を中心に、9年間で育てる子ども像を共有する。 ○交流日を通して、キャリア教育につなげる。

中期取組目標	子ども一人一人の思いを徹底的に大切にします。 ○子どもの安全を守ります。 ○子どもの安心を守ります。 ○主体的・対話的で深い学びを実現します。 ○働きやすい風通しの良い職場を作り、新田小のチーム力を最大化します。 ○本当に大切な目標を変えないために、変わる勇気を持ちます。
--------	---

重点取組分野		具体的取組
知	学習指導 授業改善	①重点研究で教師一人ひとりが授業実践を行ったり、一部教科担当指導を担って深い教材研究を行ったりし、目指す学びの姿の実現に向けて授業改善を図る。②日々の授業を通して子どもたちの学習状況を適切に見取ったり、ふり返り等を活用したりして個に応じた指導を充実させる。③少人数指導や個別支援指導を行うことで、きめ細やかな学習支援を行う。
徳	豊かな心	①学年の実態に応じた教科担当指導を計画的に行い、学年や専科担当の多くの目で子どもの姿を見とる。②年2回のYPアセスメントの活用と支援検討を行ったり、心と体のアンケートやいじめ記名式アンケートをもとに子ども面談を行ったりし、子ども達の心情理解に努め、共感的に接しよさを伸ばす。③異学年交流を通して、学年に応じて一人ひとりが活躍できる場を設定し、集団から自分の存在や役割を認められる経験を重ね、自己有用感の育成につなげる。
体	健康教育	①体育科基本調査のデータを活用し、友達との関わりの中で運動することの楽しさを味わい、どの子も安心して取り組める活動を設定する。②運動することの楽しさや、より運動に親しもうという意識を高めることができるように子どもの声を生かして授業改善を行う。③運動委員会が活動を計画し、楽しんで体を動かす子の育成を図る。④アレルギーや傷病者の対応に関する研修を行い、有事の際も適切な対応をとることができるようにする。⑤教員と子どもの安全に対する意識を高めるための工夫を考える場を設ける。
公 開	自分づくり教育 (キャリア教育)	①地域とつながり深く学ぶ機会を設け、他者との関わりの中で自分の思いや考えを表現し合い、一人ひとりが自己有用感を高められるようにする。②「自分づくりパスポート」を活用した学習活動を行ったり、教師が対話的な関わりをもったりすることで、子ども自身の変容や成長を適切に自己評価する力を育てる。
いじめへの対応		①いじめ防止基本方針に沿って児童指導を進めていく。いじめ防止対策協議会を定期的に開き解決に向けて全教職員で取り組んでいく。②日常的な挨拶や声かけを行い、自己有用感の育成を通して、いじめの起きにくい学校風土を目指す。③受容的で親和的な集団をつくり、友達のよさに目を向けることのできる仲間意識を育てる。④警察、SC、SSWなど他機関と連携し、教師の指導力を高め、法の主旨に則り広くいじめを認知し、改善に努める。
人材育成・ 組織運営(働き方)		①余剰時数や日課表を検証し、十分な学習時間を確保した上で、会議の効率化を図る。②メンターが自主的にスキルアップが図れるように、経験ある職員がメンター会に積極的にかわたり相談にのったりできるようにする。③すぐるを活用して保護者との連絡や学校からの情報発信の効率化を図る。④チーム学年経営、教科分担を継続して質の高い授業を提供するとともに、教師の負担軽減も図る。⑤重点研究に関わる研修を通して、授業力向上を図る。
地域学校 協働活動		①学校運営協議会、地域学校協働本部の会合を定期的に実施し、地域の方の意見を学校運営に生かす。また、児童の安心安全や学習効果増大のためにくすび応援隊の参加を呼びかける。②学援隊による登下校時の見守り活動を中心に安全対策の充実を継続する。③中学校ブロックで交流する機会を設けたり、幼保小の交流を行ったりし、異校種との連携もとっていく。
特別支援教育		①児童の困り感や保護者の願いを受けた個別的教育支援計画を立て、児童一人ひとりの寄り添った丁寧な支援を推進する。②SC、SSWとの情報交換を密に行い、家庭や医療等の外部機関と連携した支援を進める。③「くすのき」での特別支援授業を実施し、個に応じた指導の充実を図る。④ほっとルームの設置やオンライン授業実施により、登校支援が必要な子ども学校とかかわり登校しやすいような支援を行う。
安全管理		①危機管理、危険予知の力を高め、非常時の具体的な行動を理解し、どう行動すべきか判断できる職員や子どもを育成し、実態や要請に応じて、防犯・防災の対策が取れるよう訓練や研修を工夫する。②教職員の安全に対する意識を高め、安全安心な学校にする。外部の方の助言を取り入れ校内安全教育の充実を図る。③毎月の安全点検で危険箇所がないか確認し、安全管理に努める。
担当		健康安全